

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 14 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03 ~ 12/13 7:51 移送実施
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25 ~ 12/5 10:31 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・12/14 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (12/14 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 1,507 mm(水位上昇累計:2,724 mm) 12/13 7:00 から 105 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,552 mm(水位上昇累計:2,278 mm) 12/13 7:00 から 22 mm 上昇

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/14 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (12/13 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,131 mm (12/13 7:00 から 32 mm 上昇)	O.P.+ 4,035 mm (12/13 7:00 から 51 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 2,848 mm (12/13 7:00 から 59 mm 上昇)	O.P.+ 2,865 mm (12/13 7:00 から 55 mm 上昇)	O.P.+ 2,985 mm (12/13 7:00 から 47 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,136 mm (12/13 7:00 から 16 mm 上昇)	O.P.+ 3,106 mm (12/13 7:00 から 17 mm 上昇)	O.P.+ 3,340 mm (12/13 7:00 から 21 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 3,089 mm (12/13 7:00 から 12 mm 上昇)	O.P.+ 3,084 mm (12/13 7:00 から 16 mm 上昇)

3号機トレンチ立坑水位について、従来は「水圧式水位計」を使用していたが、従来とは違う「液面計」を使用して10/18から12/12まで直接水位を測定したところ、実水位は「水圧式水位計」より200mm以上低いことが判明したため、12/14分から3号機トレンチ立坑水位を-200mm補正。今後は、3号機トレンチ立坑水位計を定期的に(月1回程度)液面計で校正。

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	12/13	8:45	ND	0.08	0.07
福島第一 1~4号機放水口南側約330m	12/13	8:20	ND	0.04	0.03
福島第二 3,4号機放水口付近	12/13	8:25	ND	ND	0.01

・その他、福島第一原子力発電所沿岸1地点(12/13採取分)、沖合11地点(12/12採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134、137)は全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (12/14 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	14.0
2号機	循環冷却システム	運転中	18.9
3号機	循環冷却システム	運転中	14.6
4号機	循環冷却システム	運転中	22

[2号機]・12/14 6:54 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生。現場を確認したところ、漏えい等の異常は確認されていない。現在、同システムは、同警報による自動停止条件を除外し、代替監視処置としてスキマサージタンク水位の監視強化および異常時には手動停止させる運用としていることから、スキマサージタンク水位を確認し、変動がないことを確認。その後、計装配管の打振を実施し、警報がクリアしたことを確認。今後、1時間に1回程度流量の確認を行う予定。なお、使用済燃料プール代替冷却システムは継続して運転しており、冷却に問題はない。

[4号機]・11/29～ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (12/14 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.4 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約1.8 m ³ /h)	37.4	38.3	110.5 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約5.9 m ³ /h)	64.9	68.7	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.7 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m ³ /h)	57.4	64.1	101.6 kPaabs

[2号機]・12/14 10:40 原子炉への注水量について、注水量の減少が確認されたため、給水系からの注水量を約2.5 m³/hから約3.0 m³/hへ調整。また、本操作に合わせて、炉心スプレイ系からの注水量を約6.2 m³/hから約6.0 m³/hへ調整。

[5号機]・12/14 津波の影響により使用出来なかった残留熱除去系海水ポンプ(B)の復旧作業に伴い、6:29より残留熱除去系ポンプ(B)、残留熱除去系海水ポンプ(D)を順次停止し、原子炉の冷却を停止。その後、残留熱除去系海水ポンプ(D)および残留熱除去系ポンプ(B)を再起動し、16:29原子炉の冷却を再開。本停止に伴い、原子炉水温は26.5 から38.2 へ一時的に上昇。

[4号機][6号機]特に変化なし

<その他>

・10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

以上